



養蠶圖解

全





養蠶圖解緒言

養蠶を書ふ乃書其ふ多しといふも文字を

かきつりて其を工しつりて其生れつり出

たる書籍の源少なり然るに此書蠶

糸の解少しなりハ昔く實地を述るは

字する説を裁き唯婦女子とて

此道と云はせしむる事と宗とす乃

養蠶圖解
萬笈閣梓

書ちんばあふありきう紙書とは大々
 遠つちけきい肯ん書ん字ハ眼眼ちあゆら
 ども此書ふよりて教喻を受まハ百歳万
 中の奇特を得んと更ニ疑ひあゝるべし
 斯つちと免下聖廟の例も佳たり
 田中尾の主人 平亭銀鷄

養蠶圖解目錄

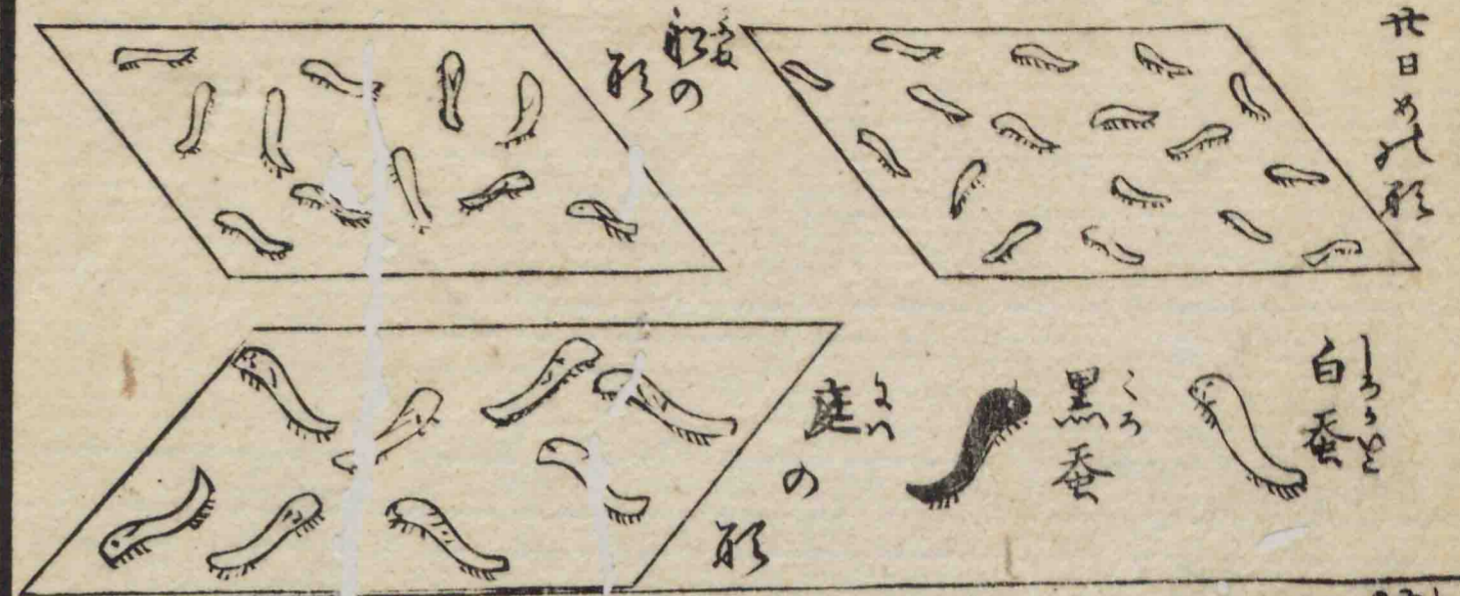
- 一 伊勢古く所神樂の事
- 一 養蠶の始りの事
- 一 養蠶種子見せりの事
- 一 養蠶種毒忌同貯かりの事
- 一 種を冬水に漬く事
- 一 桑の樹を作り益ある事
- 一 養蠶諸道具の事
- 一 養蠶生息初り時公河の事
- 一 養蠶棚建かり養蠶風を極める事
- 一 家内陽氣加減の事

- 一 船の居起手入の事
- 一 齋盛の時森面を漬ぎたる例の事
- 一 暑氣を防ぎし事
- 一 家内陽氣加減の事
- 一 鷹の居起手入の事
- 一 齋盛の時分森面を漬ぎたる事
- 一 同署名を防ぎし例の事
- 一 諸國少く菌を化らす事
- 一 縁取やう口傳の事
- 一 齋の音息 病見やうの事
- 一 齋の徳少く福者と成し事

天照右神雅彥靈日神素戔
 乃を教ぬ(保命神)の眉をかり
 申りて糸を(色)と云
 眉小生むると云(糸)の眉小
 似身(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を
 推目女(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を
 河原を(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を
 河神を(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を
 神と(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を
 木(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を(糸)の糸を
 かり



橋水玉蘭齋照

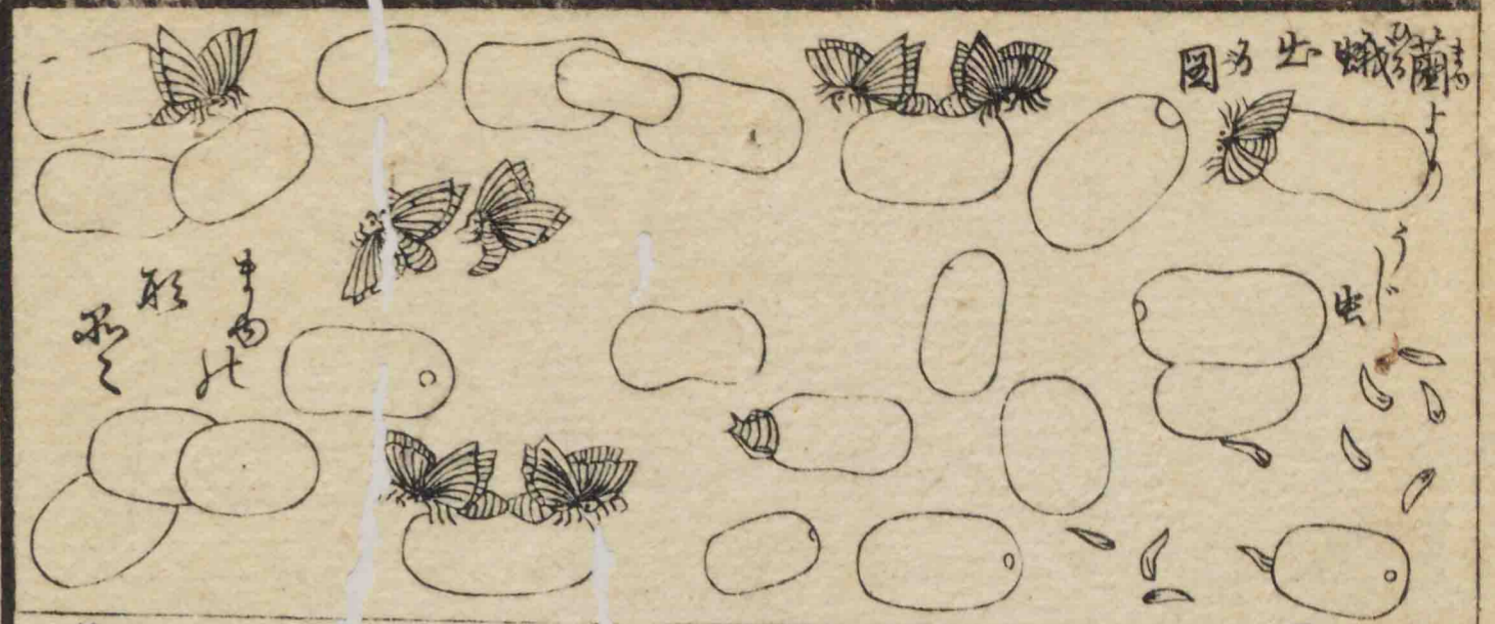


時つらふ事の時心葉動あつらふをね方めりて
 温氣多たやう久りて一葉
 春生れある時を待のり

時つらふ事の時心葉動あつらふをね方めりて
 温氣多たやう久りて一葉
 春生れある時を待のり
 蛇の 虫の
 白蛇 黒蛇
 蛇の 虫の
 白蛇 黒蛇

あつらふ事の時心葉動あつらふをね方めりて
 温氣多たやう久りて一葉
 春生れある時を待のり
 蛇の 虫の
 白蛇 黒蛇





扱ふの自動香を存する方毎糸子を洗滌淨おまへし
然るに香ある糸を掃除して燥き入し。

香標立指并香風を嫌ふ。

香標入るておておての仕法を其まの傍手宜敷お話せし

先事家おれお破風小大威容をあけおの窓自油お流し

可くお風ねの穴をぬきお電のかしおをん附くたこのか

先さの香へ元より香のららたを好む陰をかん入戸

をおけお香の扉お開くなら指おしてを流しより風お入

先一別して初風の雨板のるおしてや一るおのさる

無一板の濡りかおお陰より居るおおおおおおお

英指のあてもおぬへし

家内陽氣加減のり

香あは香お我家の貯糸を考(我身の時服給ふお

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

おの自能細おまへし

生け香を
舞かおを風



せんたつをいへる

染葉の味は清きものあり

むらさきを染らんとあつ

入ハとくくそかかんを

洗ひしぬきをくぐ

我身ぞいそあひりく

戸のまのハ子あどき

これをもこの我身のき

暖かひりてその身を

あどべー 老翁いへる

子高の若あひりてそ



うのきま
春柳の
さくらんぼ
さくらんぼ

その 迅速きものあり

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ





桑の葉の付分露を漬く
 或年蚕糸の付分より座の糸を毎日毎大取の糸
 お陰風をげく。然る蚕大取の糸はしるあり。其時お陰
 おまの蚕切者の人ありて。お陰の糸を焼く者のおま
 能くお湯ををわらり。おまの糸はしるあり。其時お陰
 濡れ痛むを村をまの糸の上から濡れおまの糸を
 さらうん。ドムらとや。
 同糸氣を漬ぐ。例の
 ありて。蚕糸を漬ぐ。例の糸を漬ぐ。南風ありて
 さうら。おまの糸を漬ぐ。例の糸を漬ぐ。おまの糸を漬ぐ。
 こと人ありて。おまの糸を漬ぐ。例の糸を漬ぐ。おまの糸を漬ぐ。
 わらり。おまの糸を漬ぐ。例の糸を漬ぐ。おまの糸を漬ぐ。
 おまの糸を漬ぐ。例の糸を漬ぐ。おまの糸を漬ぐ。

又或の座よりより糸
 糸をさむる人おまの糸を
 持るねる糸のとありし
 久後座をさむる糸を
 例の糸をさむる大
 周府七八本掛の糸を
 ひとつ毎日家内を
 間をあきおまの糸を
 蚕糸も痛むは糸を
 さらう人おまの糸を
 糸をさむる人おまの糸を
 糸をさむる人おまの糸を





洗水
 又糸をあげら縋車これハ玉糸よりとろろ仕法ありと云へ
 ども。まづ一方を圓小股ハをすこ糸をまねねら仕指控又云々
 の後りあれを其糸小志こがひより一とを糸あげー。
 蚕の居敷糸糸 宿尼指のり
 又一方小管のたの方人車と云うけ。是小つよき糸をうけてお
 ちき付ら法也圓小あらハ糸糸仕法流義あり。宜敷
 を糸あげー。
 又小えざらハ糸糸あむ是小加減
 又糸をあげら縋車これハ玉糸よりとろろ仕法ありと云へ
 ども。まづ一方を圓小股ハをすこ糸をまねねら仕指控又云々
 の後りあれを其糸小志こがひより一とを糸あげー。
 蚕の居敷糸糸 宿尼指のり
 又一方小管のたの方人車と云うけ。是小つよき糸をうけてお
 ちき付ら法也圓小あらハ糸糸仕法流義あり。宜敷
 を糸あげー。
 又小えざらハ糸糸あむ是小加減

同日目佐小獅子の妻糸
 糸をすくを
 ちろるをりとあるぞ
 獅子の体の中白糸か
 あつてある糸あれを産の
 居敷糸あ〜くあげー。是ハ
 産らるる糸又ハ暖あつる糸
 糸あげー。
 獅子の居敷糸は乃糸死
 糸あつては是ハ産らるる糸
 ちろる糸あつては是ハ産
 あり〜糸あげー。



糸をすくを

うまきつゝ行元あきふより一。あき種元を以て一陸分種元を以て一。後之患を以て一。

養の徳も福考とかりし。

上る雅承那の人知やて父ふをなれ母お仕て考ゆえより家多しむねを朝夕の焼もまろの煮子とも肌をふ苦ろ一日を更りらるが秋ては母を考ふ後もつたけまわつてあらんとつらく考へ大判をゆんる養業もまろの事一ゆを其例を考へ母をも事秘小書とせむやと口ひ然の田畑不棄を極切考ふたりを朋方をゆめはれもよまをこら一とあくやして飯立らるふめつ子のりふたのり利益一田畑を考ひて一く雲連らる湯れあき家とありて母をり公やとく考せむも福もたぬを思ふあして存らるとあん是考ゆの徳を天日感為すりまてあり。

養子図解 終



発行

書林

京都三條通柳馬場角	堀屋仁兵衛
大坂心齋橋通北久太郎町	河内屋喜兵衛
同 南久寶寺町	伊丹屋善兵衛
同 北久寶寺町	河内屋源七郎
尾張名古屋本町十二丁目	萬屋東平
同 三丁目	菱屋藤兵衛
同 十丁目	菱屋平兵衛
同 石町	美濃屋伊六
東京日本橋通三丁目	山城屋佐兵衛
同 一丁目	須原屋茂兵衛
同 芝神明前	和泉屋市兵衛
同 横山町三丁目	和泉屋金右衛門
同 淺草茅町二丁目	須原屋伊八
同 本石町二丁目角	椀屋喜兵衛

紙員改

五
紙員改

群馬県立図書館



0664021-3